

冬至には小豆粥

太宰府市国際交流員 ^{キムシンヒョン} 金辛滋

韓国にはこの時期にはこれを食べるとい風習がいくつかあります。たとえば旧正月にはトックク(お餅のスープ)、小正月には栗とクルミ、お盆(秋夕)にはソンピョン(お餅)などが代表的です。今回は「冬至(동지)には小豆粥(팥죽)」を紹介します。

冬至は言葉のとおり「冬に至る」という意味があり、夜が一番長く昼が一番短い日の中で、本年は12月22日(金)が冬至です。この日を過ぎると、だんだん昼の時間が長くなるので、太陽が再び始まる出発点とも思われたそうです。

そして韓国の팥죽も言葉のとおり팥(小豆)と죽(粥)のことで、小豆で作ったお粥です。

冬至に小豆粥を食べようになった理由は、小豆の赤い色が厄払いと伝染病を予防してくれると信じていたためです。冬至の期間に、厄払いを意味する赤い小豆(팥)と命の誕生を意味するもち米団子(새알심)が入った小豆粥を食べると1年を締めくくり、新しい年を迎える儀式を行いました。

日本のお汁粉やぜんざいとも似ている韓国の小豆粥(팥죽)。見た目は似ていますが、韓国ではこのような意味があります。みなさんも12月22日には小豆粥(팥죽)を食べてみてはいかがでしょうか。



人権標語

肌の色 花の色
色々あるから美しい

太宰府西中2年
(応募時)

もりた ちかう
森田 愛生さん



かわなみ ようこ
川波 洋子
(星ヶ丘区) 小原流

花材 野バラ、百合、グロリオサ、モンステラ

季節の生け花

太宰府市華道連盟

つれづれ

太宰府短歌会

どんぐりも異常気象によるものか
秋を待たずにあおき美落ちぬ
通古賀 詫摩 典子
なんとなく摘みたくなる竹笹の
端に止つてる蝶の羽
福岡市 竹森 祐彦

弟が妣に贈りし財布もつ
初給で求めし西陣織の
糟屋郡 仲道 朋子

難病で思うに任せぬ友なれど
今が幸せと微笑み返す
東ヶ丘 西木 ミヤ子

秋の暑さも終らむ午後の蟬の声
つくづく一生つくづく一生
大佐野台 宮崎 フミ

太宰府俳句会

持永 真理子 選
また闘志失せてはならじ文化の日
馬場 有岡 和砂

数独の数字拾ひて夜の長さ
国分 松尾 満子

青空と白き霊峰紅葉かな
連歌屋 吉嗣 のり子

役終へて肩に雀の案山子かな
高雄 西元 治雄

どんぐりの森妖精の笑ふ声
朝倉郡 高尾 ゆうこ

飛梅句会

介弘 紀子 選
写真立て思ひ出新たな冬用意
大野城市 田代 りえ子

マニキュアの長き爪もてむく蜜柑
長浦台 徳賀 美智子

夕映えの向かひに夕月かりをり
馬場 野上 コト子

歌声の近づいて来る芒原
観世音寺 野田 杉子

冬支度予定なき日に始まりぬ
青葉台 平野 香

宝満句会

菅井 久美子 選
筑後路の奥の奥まで稲の秋
大野城市 稲岡 とみ子

朝鳴や戒壇院の作務奉仕
筑紫野市 名本 剛

鴉日和畑に親しむ一日かな
星ヶ丘 江里口 幸生

歓声に決まるトライや鴉の晴
福岡市 工藤 友子

磯馴松海風清し新松子
青葉台 本山 晴子

都久志てんじん句会

佐々木 甘露子 選
月代やただひつそりと平家谷
青葉台 彦坂 正学

天高しバトン受け継ぐ子供たち
福岡市 塩飽 たか子

笑ひ声すぐ遠ざかる秋のこゑ
福岡市 北川 洋子

秋深しつくり馴染む土瓶の手
福岡市 宮津 英里子

夢十夜見せんと烏瓜の花
小郡市 貞金 志帆

太宰府川柳倶楽部

小池 一恵 選
海底に散ったさきもりさぞ無念
石坂 多田 いさお

独りは気楽強がり言う故郷の母
松川 山根 清

期待した初夢摸に邪魔をされ
春日市 大塚 茂

手の甲に時の流れを刻む皺
大野城市 高巢 富美子

赤門を背に飛翔の子にエール
観世音寺 松浦 ちえ